

マレーシア唯一の巨大カジノリゾート

～ゲンティンハイランド～

シンガポール事務所

クアラルンプールから北東へ車で約1時間、山あいの高原に突然都市が姿を現します。それがマレーシアで唯一の政府公認カジノを有する「ゲンティンハイランド」です。

ゲンティンハイランドはマレーシア国民に大人気の巨大リゾート。創設者の林梧桐が行商や建設事業から身を興し一代で築き上げたゲンティングループの象徴です。ゲンティンは今やグループ社員だけで5万5千人をこえ、ホテルやクルーズ会社も抱える一大企業となっています。シンガポールのセントーサ島にあるカジノリゾート「ワールド・リゾート・セントーサ」もゲンティンの傘下です。



ゲンティンハイランドのジオラマ

通年で30度を超えるマレー半島にあって、海拔2000mに位置するハイランドは20度前後と涼しく、ゴルフ場や遊園地などもあり、首都のクアラルンプールから気軽に行ける高原リゾートとしてマレーシア国民はもとより、マレーシアを訪れる観光客にも人気を博しています。

リゾートには6つのホテル、200以上のレストランがあり、6,118室のファースト・ワールド・ホテルは数年前まで世界最多の客室数でギネスにも載っていました。

現在50億リンギット（1リンギット≒30円）をかけて再開発を進めており、再開発計画の中には映画で有名な20世紀FOX社のテーマパークも含まれています。FOX社のテーマパークは世界でここだけです。

マレーシア政府からカジノライセンスを認可されているのはゲンティングループだけで、完全な独占企業です。イギリスやアメリカにもカジノを有しておりマレーシアからマネージメントしていますが、韓国のカジノや日本のカジノ開発の担当はゲンティン・シンガポールが担当しています。

イスラム教信者は教義で賭け事を禁じられています。国民の60%超を占めるマレー人は大多数がイスラム教信者のためカジノには入れませんし、ディーラーなどカジノに関連する職にも就けません。カジノに入場できる国民のほとんどは中国系の国民が占めています。

シンガポールのカジノでは、国民のカジノ依存症対策が厳しく、国民の1回の入場に付

き100シンガポールドルの入場料を徴取される、1回あたりの滞在時間は24時間以内など、ハードルが高くなっています。他にもカジノのコマーシャルは禁止、本人や家族の申請による入場禁止措置、生活保護受給者や家賃滞納者の入場禁止、カジノ内の依存症パトロール等、国民の過度の賭博行為を抑制する様々な工夫がなされています。

一方ゲンティンハイランドでの入場制限はイスラム教信者、もしくは本人・家族の申告があった者の2つだけです。人口の25%を占める中国系の国民はほぼ制限なくカジノに入れることとなります。



取り壊し中の建物が残るテーマパークの建設予定地

2017年にオープンする20世紀FOXのテーマパークには10億リンギット（約300億円）が投じられるそうです。10ヘクタールに及ぶ予定地は、視察時にはまだ残存施設の取り壊し中でした。あとわずか2年で完成するとは信じられないくらいですが、巨大な資本力と人的資源で無事に完成することでしょう。リニューアルオープンが楽しみです。

(丸山調査役 兵庫県派遣)

CLAIR